

# 行政視察報告書

## 「議会改革の取り組み」

平成26年10月

古西祐子 東野敏弘 坂部武美 村井正信

## 視察実施日

- 1、平成26年10月2日（木）から3日（金）まで
- 2、視察先  
全国市民オンブズマン連絡会議（愛知県名古屋市）  
岐阜県高山市議会
- 3、調査事項

テーマ：議会改革の取り組み

西脇市議会が議会改革に取り組み約5年になり、その成果も現れていると思われるが、市民は議会をどのように取らえ、どのように評価しているのかを知ることが必要と考える。また、市民から評価の高い議会はどのような取り組みをしているのかを学ぶことをテーマとした。

### (1) 全国市民オンブズマン連絡会議

第三者から見た「議会改革」について

「連絡会議」は「議会改革って何だ？」の中で議会への課題を提起されており、その内容について議論を求める。

- ①「議会改革は、議会・議員の活動の可視化」について
- ②市民の側から見たの議会改革について
- ⑤議会への住民参加について

### (2) 岐阜県高山市議会

「議論する議会を目指す議会」の取り組み

高山市議会は、議会改革度調査で常に上位を占めており、特に決定前の審議を尽くすことを目的にされていることと市民との意見交換を機能的に実施されていることが特徴的である。

- ①政策討論会について
- ②分野別市民意見交換会
- ③地域別市民意見交換会
- ④政務活動費について
- ⑤広報公聴委員会について

- 4、参加者 古西祐子 東野敏弘 坂部武美 村井正信

## 全国市民オンブズマン連絡会議

### 1、「連絡会議」の概要

市民オンブズマンの情報交換・経験交流等を行う機関。各市にある市民オンブズマンの運営はボランティアであり、その交流を年会1回の総会で行っている。議会に関しては公開度調査を実施しており、その報告書等の費用は関係者（弁護士等）の持ち寄りと資料の販売によるとのこと。

### 2、調査事項

#### ①議会改革は、議会・議員の活動の可視化について

- ・市議会の問題点は他市議会との比較をしないと分からない。
- ・議会のジレンマとして、一番動かない人を基準にしている  
議員は差があり、平等というものはない

#### ②市民の側から見ての議会改革について

- ・政治と市民との距離が遠い
- ・議員の活動が見えない
- ・議会からのPRを多くする
- ・一般質問の事前通告内容を市民へ知らせる。
- ・一般質問の時市民に傍聴をしてもらえる仕組みが必要（議員の姿勢）
- ・一般質問と答弁が事前に完結してはいけない（突込みが少ない）
- ・一般質問のあり方として、事前調査・現場調査・他市への調査・提案している施策を重視するための予算を含め検討しておく。
- ・政務活動費を使った会派等の視察については、ひとつの課題において基本的には2名程度で行う。

その理由として、課題についての聞き取りや議論の責任制の徹底とより多くの課題の調査が可能となる。

#### ③議会への住民参加について

- ・現在の議会制度の特徴は、市民から見て「理解しにくいもの」が多い
- ・請願がどのように決まったのか分かりづらい。

## 高山市議会

### 1、市の概要

- ・平成17年2月、1市2町7村による合併により全国一広い市となる  
(2,179平方km)
- ・人口 92,365人

### 2、何故、議会改革をしたのか

平成17年の合併により地域が広がり議員数が124人となった。その数は最終24人となるが、広い地域で少ない議員でどのように市民の声を反映させるかが課題となり、市民に見えるための議会改革の必要性和、議員一人ひとりの力を付けていくことが議論された結果である。

### 3, 調査事項

#### ①政策討論会について

- ・総合計画が審議会で審議される前に議会で政策を討論し市へその内容を提言した。
- ・議員全員による「総合計画に関する特別委員会」を作り、各常任委員会を分科会と位置づけ、分科会ごとに政策課題を設定し、調査・研究を行った。
- ・提言したものについては、常任委員会や予算・決算特別委員会で理事者にその後の状況を確認している

#### ②分野別市民意見交換会について

- ・教育・文化・福祉・産業のさまざまな課題について、いろいろな団体と意見交換している。
- ・「協働のまちづくりについて」、「農業生産を支える取り組み」、「観光戦略について」、「若者の雇用について」等、年間10回開催している。
- ・参加対象は、関係団体やグループで、議会からは課題に関係した常任委員会が担当している。
- ・内容によっては保育室の確保をしている
- ・これらの意見交換した結果を政策提言等に生かしていくとのこと

#### ③地域別市民意見交換会について

- ・地域別市民意見交換会は、西脇市で言えば議会報告会に該当するもので、西脇市と基本的に違うのは「議会報告」ではないということである。
- ・市内20箇所でこれからの高山市のあり方や施策について意見交換するという内容である。
- ・最初の頃は要望事項が多かったが、最近は要望はなくなった。
- ・参加要請については、「ご案内」のチラシでを作り配布する。
- ・議員一人40枚のハガキを渡し、議員は自分の後援者以外で例えばPTA関係者や消防団等の関係者にハガキを出すことになっている
- ・区長さんについては人集めには関わって貰っていない。

#### ④政務活動費について

- ・年間一人20万円

- ・立替払い制度をとっている。
  - ・内容は、視察費用や備品購入
- ⑤広報公聴委員会について
- ・地域別市民意見交換会の設定
  - ・提出された陳情等の常任委員会への振り分け
  - ・議会だよりの編集発行

## 所 感

### 古西祐子

平成26年10月2～3日の1泊2日で、私たち無党派の有志4人で名古屋市と高山市へ行政視察に赴いた。

まず、全国市民オンブズマン連絡会議では、名古屋市内のビルの4Fにある弁護士事務所にお邪魔した。今まで経験した行政視察は立派な市庁舎を訪ねることばかりだったので、狭く雑然とした事務所の中で、バタバタとそして真剣に業務に取り組む弁護士さんの姿に強いインパクトを受けた。

オンブズマンとは、全国に組織された任意の市民団体であり、情報公開が正当になされること一点で繋がっているという。

全国の県議会や主な市の市議会を調査し評価した、年1回発行の「包括外部監査の通信簿」や、半年に1回発行の「全国市民オンブズマン連絡会議、地域活動報告」などの資料は、私たち議員にとって気づきの宝庫であると思う。これを読みこなすのと、知らないのとでは議員としての中身が雲泥の差になって表れるのではないか。

調査した膨大な資料を集め、評価し、それを分厚い本にまとめるということ、オンブズマンの人たちが手弁当でやっているという事実に驚き、頭が下がる思いがした。

限られた時間の中で、一般質問の話が特に勉強になった。

まずそもそも、質問しないということは、アカウントビリティの観点からアウト！と、明快だ。またテーマを1つに絞り、とことん質問する方がよいとのこと。そして、目指すべき一般質問は、政策提案はもちろんのこと、その政策についての予算措置まで踏み込むべきという。そうでなければ、言いつばなしのなんの効力も発揮しない無意味な質問でしかない。

一般質問について、このように明快な指針を知り、一般質問に対するやりがいと、おもしろさ、真剣勝負の重みと責任、そして難しさを感じた。議員の任期中に何度一般質問できる機会があるかわからないが、その一つ一つを大事にそして真剣に取り組むべきであり、このことを強く認識することができたことが、今回の視察の大きな収穫である。

また、一般質問は市民に事前告知することが、基本中の基ということ。市によっては、地元新聞に掲載されるところもある。一般質問はセールスであり、議員自身が「一般質問を見に来て下さい」と、積極的にアピールすべきとも。

テーマが決まったら、どういう視点でどう質問するのかという、質問の仕方が大切ということや、理事者側と事前調整はあっていいが、八百長みたいな質問はダメで、いざ議場ではガチンコ答弁するなど、私にとってはまだまだハードルの高い点もあり、一般質問を極める道は、遙か彼方だ。

一般質問とは、工夫と発想、アイディア、勇氣、そして市政に対する強い思いを持ち、議員生命をかけ、全身全霊でぶつかっていくべき、とても大きいものであると思う。

そして、個性的な議員でいいらしい。

2日目に訪れた高山市役所は平成8年に建築され、木のぬくもりを感じながらも洗練されたデザインと風格を併せ持つ、素晴らしい建物であった。さすが、古くから文化の栄えた町のその立派な庁舎は、一步入って感じるその空気感に、高山市民の誇りまで共鳴してくるようだった。

議会改革ランキングで常に上位を占めている理由は「議論する議会を目指す議会」の取り組みにあるようだ。2時間程の短い視察の中で、この「議論する」ということのこだわり、徹底ぶりを強く感じた。

私は議員になってもうすぐ1年だが、議会で取り組む行事の多さに驚いている。3、6、9、12月の本会議のある月は当然であるが、本会議がない月でも何かと議会に出勤し、会議やら、イベントやらいろいろある。

高山市議会を視察して感じるのは、高山市議会でのさまざまな行事ごとが、高山市民のためになるものが多い。(少なくとも西脇市よりは)

その違いは、「議論する」というこの1つにすべて繋がっていると感じる。

市民のためになることを、幾年にも渡って議員全員が真剣に議論し尽してきたその結晶が、全国的にも注目を集める今の高山市議会なのであろう。この素晴らしい庁舎建物から感じる風格は、高山市議会が発するオーラなのかもしれない。

高山市議会の数ある「議論する」の取り組みの中で、特に印象に残り、そして私たち西脇市議会でも取り入れるべきではないかと思うものが、2つある。

まず1つは、予算特別委員会・決算特別委員会・補正予算を全て、議員全員

が審議するということ。(議長が委員長をし、監査委員もメンバーに入る)

高山市議会は24人の議員全員で毎回審議を行ない、なおかつ議論し尽くするという姿勢を持つ。委員会メンバーが増えれば、その分審議の幅が広がり、市民生活への改善に繋がる可能性が格段に増えるのではないか。一方西脇市の場合、議員16名を半分に分け、毎回7~8人で審議する。この9月議会で私は初めて決算特別委員会のメンバーとなり審議に加わったが、新米の私が評する立場にはないが、とても審議し尽くされたとは思えなかった。何故西脇市議会は、あえて半分にして少人数の委員会にしているのか、高山市議会の取り組み方を見て、大きな疑問が残った。市民の視点に立つのなら、言わずもがなであろう。

もう一つは、「地域別市民意見交換会」だ。議員を4つの班に分け、毎年1回11月に市内20ヶ所の地域で行うという。これは当市では年2回行っている「議会報告会」に相当すると思う。

しかしその中身は、似て非なるものと感じた。名称からも明らかだが、高山市では「意見交換会」であり、西脇市では「報告会」である。高山市では市民の声を市政に反映させようとする姿勢が鮮明だ。市民意見を考慮した政策提言まで繋げていきたいという高い志を持っている。よって仮にその会場に集まる市民が少なかつたとしても、動員などしない。動員は全く無意味なことと、高山の人は皆な知っているのでしょう。市民のために議会が本来すべきこと、それを真剣に考えるなら、私たち西脇市議会のやり方がこれで本当にいいのか、大きな疑念が生まれた視察であった。

それにしても、今回訪れた視察先のいずれからも頭をハンマーで打たれたような大きな衝撃を受けた。このとても素晴らしい視察先を選定して下さった先輩議員に感謝したい。この視察で得たことを、少しでも形にしていくことに努めていきたい。

ありがとうございました。

## 東野としひろ

全国市民オンブズマン連絡会議は、官官接待(食糧費の違法な支出)が起こった時に仙台市の弁護士が立ち上がり、やがて全国の共通した問題として、横の連絡が取られるようになり、全国組織に発展されたそうです。全国組織になったのは、自分の県・市町村のことを知るためには、他の自治体と比較することが大切であるためであったようです。

連絡会議事務局長の新海聡弁護士の話は、とても刺激的でした。『死んだ監査、眠る議会』と言われるように、政治と市民が遠い存在になっている現在、どう近づけるかが大きな課題であること。オンブズマンが、議会や議員に厳しくしているのは、議会や議員が市民に役立つ仕事をしてもらいたいからだと話されました。議会が本来の役割を果たすためにも、開かれた議会づくりを意識的に行う必要があることを力説されました。

政務活動費について、オンブズマンは不必要だとは決して考えていない。むしろ、しっかりと勉強する議員に必要な費用であること、不法な支出が問題であることを話されました。ただ、そんなに多額な費用はいらぬとも指摘されましたが。当然、地方議員の視察で、海外視察は必要がないと言われました。

また、名古屋市議会の「議員本会議質問ランキング」を見せていただきました。議員が一般質問するにあたって、①事前調査や現場調査しているかどうか、②質問内容に他都市との比較がされているかどうか、③改善策は提案されているか、この3点を基準にランキングがされていました。

2001年から始められた『包括外部監査の通信簿』もを見せていただきました。全国市民オンブズマン連絡会議が半年かけて、分析されています。包括外部監査は、中核都市以上では義務化されています。その監査報告書をもとに、自治体の問題点、補助金の使い方、補助団体の問題を洗い出しをされているそうです。

新海事務局長は、私たちの質問に、的確に答えてくださいました。また、膨大な資料も、気軽にコピーしていただきました。

連絡会議の事務局は、名古屋城近くのビルの3階にあります。事務局を担当されている職員の方が2名おられました。2人とも、事務能力に大変優れていました。また、時間が許せば、ゆっくりと訪問したいと思っています。

高山市議会は、「議論する議会を目指して」、市民意見交換会や政策提言等を積極的に行われていることで、全国的に知られています。

私たちの訪問に、議会事務局の橋本次長さん、大江書記さんが私たちが事前に送付していた質問事項に答える形で、パワーポイントを用い丁寧に説明してくださいました。

高山市は、平成17年2月に周辺9町村を編入合併し、日本一広い面積の市になりました。合併時の人口は、9万7千人でしたが現在9万2千人だそうです。議員数は、現在24名です。

高山市議会では、議員定数・選挙区問題と全国的な議会批判を受けて、高山市議会のあるべき姿と基本理念を定めています。「広大な市域におけるまちづくりの責任ある意思決定機関として、市民の負託に応えるべく、議員相互の議論



を深めて合意形成を図り、分かりやすく開かれた議会を目指す。」

2011年3月に、議会基本条例を全員一致で制定しました。そして、政策提言を行うことによって議会機能を強化しようとしています。政策提言の作成にあたっては、常任委員会の所管事務調査を活用し、市民意見交換会、政策討論会、議員研修会を自由に活用し、目的・背景・基本的方向・財政の見通しを明らかにし、政策提言した事項については、執行状況をチェックしています。

市民意見交換会は、議員が少なくなり地域の声が届きにくくなるとの不安に応えるべく、小学校区を単位とした地域別（20地区）の意見交換会を年1回以上行っています。また、分野別市民意見交換会も開催されています。平成25年度では、10分野の方々と意見交換会を行っています。

平成25年度は、『第八次総合計画』に対する政策提言を1年かけてまとめあげられています。私も読ませていただきましたが、本当に練り上げられた見事な提言でした。

そして、より深い審議・審査を実施し、議決責任を果たされようとしています。予算・決算特別委員会は、議長を含めた全議員で審議をされているそうです。また、補正予算も、全議員で審査しています。時間をかけても、しっかりと審議し、審査することに重点を置かれていることに、西脇市議会としても学ぶ必要があると感じました。

## 坂部武美

全国情報公開度ランキングなどを出している「全国市民オンブズマン連絡会議」と議会改革に取り組んでいる「高山市議会」を視察した。見ると聞くとの違いは大きいものがあり、自分なりに感じたいくつかの項目についての所感を述べる。

### ◎全国市民オンブズマン連絡会議

オンブズマンというと、議会や行政をランク付けしたり、政務活動費の使い方やチェックしたりと厳しい団体のように思っていたが、事務局長の新海聡弁護士から話を聴く中で、勿論、役所の無駄遣いや情報公開のあり方などを指摘されてはいるが、そもそも議会改革とは何か、市民参加とは何かなど、本来、行政や議会が果たす役割は何かを真剣に考えられている団体だと感じた。

「眠る議会に死んだ監査委員」と言われたいようにするにはどうすればよいか、政務活動費の使い方、一般質問の点数化などの話を聴き、率直に言っても勉強になった。

### ○監査

行政の施策をチェックする機関として議会は勿論であるが監査委員が置かれているのに機能していないと指摘された。地方自治法の改正で平成11年度から都道府県、政令指定都市、人口30万人以上の都市には、弁護士や公認会計士など、外部の専門家による外部監査制度が導入された。その他の市町村でも条例による導入となっている。要は、監査がどれだけ細かくチェックできているかであるが、正直、市職員時に監査を受けた側としての経験から言えば、数字上の監査が中心であって、事業内容について効果があったか、どのように反映したかどうにかまでは監査しにくく、また、行政側も指摘された項目について報告すればいいと思っている。

西脇市の監査においても、監査委員自らの識見による独自のテーマについて監査されてもよいのではないかと感じた。

また、オンブズマン連絡会議では全国の監査報告書をチェックし、評価を行っている。西脇市議会選出の監査委員の責任は重大であり、西脇市議会もチェック機能のないチェック機関とならないようにしたい。

### ○情報公開請求

各自治体の情報公開制度としては、公文書の情報公開請求を取り入れているが、手数料が高いとの指摘があった。ちなみに西脇市は1件250円(閲覧は無料)、モノクロコピーA3まで1枚10円。コピー代はコンビニと同額から見れば妥当かと思うが、開示請求から開示まで(原則15日以内)がすぐとはいかないことが課題と言える。

### ○議会の情報公開

市民にとって議会で何が決められているのかが分からないと言われる。本会議のインターネット配信は勿論、委員会、議会運営委員会もかみ合った討論、議会・理事者側の質の向上からも配信すべきとの指摘。

議会だよりを発行しているが、字数の制限で内容が詳しく分からない点もあり、小委員会担当者としては、リアルタイムで情報発信できる委員会のインターネット配信は、来年度実施に向けて早急に詰めたと思った。

### ○一般質問

一般質問は、私はこう考えていますということをアピールし、行政の行っていることを市民に知らせる、市民から見れば知ることができる場であることから、もっとセールスすべき。ただし、事前調整をし過ぎで、シナリオどおりが多い。質問内容の目的、質問によってさらに何に目指すのかをきちんと押さえ

て質問すべきとの指摘。

オンブズマン連絡会議では、市議会の一般質問について、①事前・現場調査しているか②他市と比較しているか③改善案を提示しているかについてチェックし、ランキングしている。(議会ウォッチャー仙台という団体もある)

本やネットで調べるだけでなく、現場に足を運び現状を把握する。他市と比較し、本市でも反映すべきかどうかを考える。具体的にこうすべきとの意見・改善策を提示する。また、議員は、予算をどれだけとれるかも仕事であるから、これを提案すれば予算はいくらかかるかを調べることも重要と分かっているが、なかなかできないことを痛感している。

一般質問、質疑の1日の通告人数の割り振りの事前決定も、傍聴者等には誰が何日目に質問するかが分かるため、効果がある。ぜひ取り入れたい。

### ○政務活動費

議員は十分な調査をした上で議決しなければならないことから言えば、現場調査や先進事例の勉強、資料購入等に政務活動費は必要と思っている。オンブズマン連絡会議も政務活動費を否定していない。ただし、調査活動に本当に役立っているか、観光視察費となっていないか、多人数で行くのなら、2組に分けて違うところを視察し、報告しあうことをしているかなどを指摘。

西脇市の場合、年間44,500円と県下でも加東市の0円に次いで2番目に少ないが、少ないからといっても効果がある活動費となっているかを再度、議論すべきと思えた。

## ◎高山市議会

平成17年に旧高山市と周辺9町村が合併し、人口約9万3千人、市域は全国で一番広い2,177.67km<sup>2</sup>の伝統と歴史があるまちである。

高山市議会は、議論する議会をめざし、地域別意見交換会や分野別意見交換会、各委員会による政策提言などを行っており、進んだ市議会だと言われている。

### ○政策提言

予算が市長に専属すること、議会としての立案スタッフが手薄であること等から、政策立案ではなく、政策提言を各常任委員会が行っている。

例えば、観光振興ビジョンの策定、水道管の早期耐震化とGIS(地理情報管理システム)の導入、ゴミ処理場の建設、障害者福祉ビジョンの明確化などがあり、①その背景、②目的、③基本的方向、④財政の見通しの4点を明らかにし、提言した事項については、どのように活かされたか等の執行状況をチェックしている。

また、議会は、決定、評価の部分を主に担っているが、Pの決定に至るまでの審議、Cの評価の後、Aにおいては、改善、立案を行政に求めることを「政策提言」とするなど、PDCAサイクルにおける議会の役割を明確にしている。

また、総合計画策定においても「総合計画に関する特別委員会」を設置し、各分野ごとの提言を行っている。

併せて、これらの政策提言は、市民意見交換会や議員研修会に活かされている。

西脇市でも委員会の特定所管事項についてまとめあげたものが政策提言として位置づけられるのではないかとと言えるが、各委員会でのまとめ方を上記4項目①②③④のように統一してもよいのではないかと思った。

## ○市民との議論

### ・市民意見交換会

西脇市における議会報告会といえるもの。議員24名が4班に分かれ小学校区20箇所を年1回実施している。

西脇市は定例議会の報告を入れているが、高山市議会は、定例会の報告は議会だよりでカバーしているとし、議員が個別に報告会を開いていることもあり、主は、各委員会で調査研究中の政策課題をテーマに意見交換を行っている。平成25年度は630名の参加があり、24年度よりも160名増加し市民からの意見も増えているとのこと。また、市職員の参加はない。

西脇市における共通テーマ・地区テーマがこれに代わるものだと言えるが、果たして、前回5月の議会報告会から見て、テーマだけで意見交換ができるかは、参加者の意識の問題が大きく、地区によっても違ってくるだろうと思えた。

### ・分野別市民意見交換会

西脇市における、各種団体との意見交換会といえるもの。各委員会が随時開催し、福祉、教育、産業など分野ごとに関係する各種団体等と意見交換を行っている。

例えば、文教産業委員会は社会教育連絡協議会・女性連絡協議会と「協働のまちづくりについて」とか、JA青年部と「持続可能な農業生産を支える取組について」、総務厚生委員会は特別支援学校の児童・保護者と「障害時の療育環境の現状と課題について」、基盤環境委員会は管設備工業組合と「今後の上下水道の整備について」、福祉保健委員会は介護保険事業者連絡会と「介護保険における現状と課題について」などを行っている。

議会事務局の説明では、この分野別意見交換会の方が課題を絞れるので活発な議論ができるとのことだった。

西脇市においても、試行的でもぜひ実施したいと思った。

### ○情報公開

本会議、常任委員会、予算決算特別委員会、政策討論会をCATVとインターネット配信している。また、議長は年5回程度CATVに出演し、議会の活動報告を行っている。

西脇市においても、委員会のインターネット配信は早急を実施すべきであり、CATVは設置していないがHPやFBを活用した報告はできるのではないかと考える。

また、高山市議会は広報広聴委員会を設置し、議会だよりの発行のほか、意見交換会をはじめ政策提言のまとめなどを担当しており、西脇市においても、広聴部門の検討が必要と感じた。

### ○予算・決算委員会

高山市は、予算・決算・補正予算を全議員による委員会としている。

西脇市は議席番号の奇数・偶数で予算・決算委員を分けているが、全議員による委員会とならなくとも、現在、補正予算は総務文教常任委員会が担当しているが、当初予算に対する補正であるため、予算委員会が担当した方が妥当ではないかと思う。

### ○合併後の市民意識

個人的に聞いたかったことで、高山市の市民憲章は「わたしたちは乗鞍のふもと、山も水もうつくしい飛騨高山の市民です」です。この一言、「私たちは高山市民です」に全てが言い表しており、かっこいいなあーと思っていたのですが、「市域が広がったことによって、市民意識は変わりましたか」と尋ねると、「市域は広がりましたが、各地域ごとに地域の良さを認識されているので、意識が低下したとは思っていません。」との答えでした。

伝統の祭りや工芸品、街並み景観、温泉など、年間400万人近くの観光客が訪れる市ですし、市民も自分たちのまちに誇りと愛着を持たれていることが、議会運営にも影響しているのではないかと感じた。

2日間にわたり2箇所だけの視察研修であったが、視察内容を少しでも今後の議会活動に生かしていきたいと思っている。

## 村井正信

### 全国市民オンブズマン連絡会議

私たち西脇市議会はこの間議会改革を進めてきましたが、その指針としてきたのは他市議会での改革内容と理解しています。しかし一方市民目線で見た場合、

議会とのギャップがあるのではないかという問題意識がありました。

全国市民オンブズマン連絡会議は議会改革度の調査を行いランキングを発表しており、どのような視点での改革が必要かを話し合いました。

特に感じた指摘は、「市民から見た場合議員の活動が見えない」ということです。私たちは現在議会報告会や議会だよりで議会として議案の審議内容や採決、そして活動内容を報告していますが、それがどれ程市民に受け入れられているかを考えさせられました。「市民から見てこれでよいのか」という問い返しを常にしていかなければならないと痛感しました。

特に一般質問について考えさせられる要素が非常に大きかった。オンブズマンの視点は①事前の調査をしているか、②他市との比較をしているか、③改善案を提案しているか、の3点です。

①は担当者に聞けば分かる程度の内容ではなく、それ以上に踏み込んだ現場に足を運んで調査をしているかという指摘です。一般質問の問題意識の前提は調査であり、自分自身今までの質問についての調査はそれなりに行ってきたと思っています。しかし今回のこの指摘を見て、調査をした結果だけをとうとうと述べて、答弁を引き出すための調査をしてきたらどうかという疑問が残ります。

②は、一般質問は理事者に政策を提案するものでもあり、仮に他市で実施している政策の場合はその内容及び根拠や予算などを調査する必要があるとの指摘です。私も他市との比較する場合担当課に事前調査を行います、それでも分からない場合があります。そこを曖昧にせず他市に赴いて調査をすべきとの指摘であろうと思います。他市に行く場合必要であればそれこそ政務活動費を使い調査を充実させていくべきでないかと考えます。

③は、問題点の言いつ放しの質問ではなく予算措置まで踏み込んだ内容かと言う指摘です。私自身一般質問での政策提案において決定的に欠如していたのは「予算」という視点です。これは今後積極的に取り組んで生きたい。

## 高山市議会

高山市議会での視察で感じたのは、議会改革の必然性があったことがよく分かりました。住民の声を聴き議会活動を住民に知ってもらうには、議会・議員自身が住民との接点を多くしていかなければならないということです。

そのための実践として政策討論会、分野別市民意見交換会、地域別市民意見交換会がありますが、それぞれが系統的に必然性を持って取り組まれており、議員の意識の高さと活動力の強さに、私自身少しでも近づく努力をしたいと強く感じ入りました。

政策討論会では、高山市が総合計画を作成し審議会にあげる前に、議会で総合計画への提案を1年かけて練り上げていかれたことに驚愕しました。

分野別市民意見交換会では、議会が常任委員会で取り組んでいる課題の調査の一環として、課題に関係した団体と話し合いを持つ内容ですが、敷居を高くせず数名との話し合いを数多く行っています。この取り組みは、常任委員会での議論の内容をより深く、提案内容も的確な内容にしていくためには重要であり、私たち議会も一般会議を積極的に活用していくことが大切だと感じました。

地域別市民意見交換会で特に感じたことは、各議員が参加者獲得のため精一杯の努力をされているということです。それと表題でも分かるように「議会報告」ではなく「意見交換」の場という点が学ぶべきところです。決まったことを後で報告されても意味がないとの住民の声を尊重し、高山市の将来のためにはどのような取り組みをしたら良いのかの意見を交わしあう会という視点が住民の立場にたった会になっている。私たち西脇市議会が現在取り組んでいる議会報告会は前半は結果の報告であり、市民からも結果は議会だよりに掲載してありそれを読んだら分かる、聞いても仕様がなとの声も多く、今後西脇市議会報告会の目指していく方向が示されていると感じました。

今回の視察は、私自身議会とはどうあるべきかを示してもらえた内容であり、非常に有意義でした。西脇市議会もさまざまな改革に取り組んでいますが、まだまだ住民との接点は狭いように思います。二元代表制の一方の「元」である議会が住民の声をどれだけ集め、もう一方の「元」の市へ届けることが出来るかで議会と住民の接点の幅が決まっていくように思います。私自身この視点で今後も取り組んでいきたいと考えています。